＜口腔の役割＞

女神像とライオン像

桐生が岡公園のシンボルとして知られる女神像（織姫平和像）は桐生市の平和と産業復興を祈念する市民の象徴として市制 30 周年の 1951（昭和 26）年に建立されました。桐生が岡公園の歴史は古く、開園から 3 年後の 1912（明治 45）年、日露戦争の戦没者記念碑としてライオン像（獅子奮迅の像）が建立され、太平洋戦争の終戦直前までの間、この公園のシンボルだったといわれています。

戦争の長期化に伴い物資が不足し、日本全土でさまざまな物資の生産や利用が次第に制限されるようになりました。特に金属は兵器として使用できることから重要とみなされました。鉄は軍艦、戦車、大砲、弾丸、鉄兜、剣となり、銅ならば弾丸の薬きょう、軍用電線、飛行機の部品など軍需品として再利用できるからです。

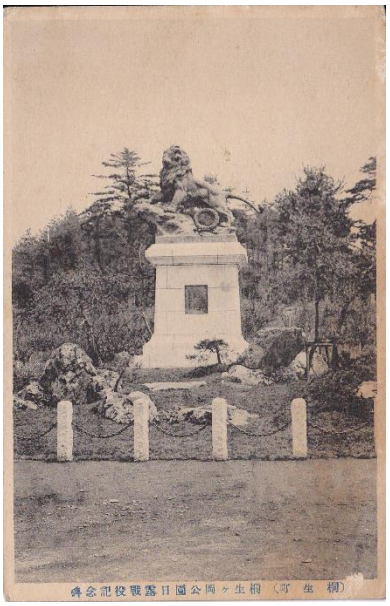
1938（昭和 13）年に出された「国家総動員法」から家庭の金属も動員の対象となり、以後は次第に悪化する戦況から全国各地で金属の回収が強化されていきました。戦乱の中、家庭の鍋やタンスの取手、窓の格子、ネクタイピンからマンホールの蓋、鉄柵、寺の鐘、小学校の二宮金次郎像、よく知られたところでは初代ハチ公像、そして桐生が岡公園のライオン像も金属供出のために旅立っていきました。

さて、現在世界情勢ではロシアのウクライナへの軍事侵攻が長期化しています。海外諸国はロシアに経済制裁を行い鎮静化に努めています。これに対してロシアは原油や天然ガス、金属などの資源の輸出を制限しています。日本はロシアから金属、特に「パラジウム」の供給を受けています。「パラジウム」は自動車産業（排ガス浄化装置）についで多いのが歯科治療（いわゆる銀歯）に使われる金属です。「パラジウム」はこのような情勢から異常な高騰を続けています。このままの状況が続けば保険治療に使用できなくなる懸念もあります。しかし見方を変えれば「銀歯」には見た目の悪さや、歯より硬いため歯に破折を生じたり金属イオンによる歯肉の黒ずみ、まれに金属アレルギーなどの欠点があります。現在、保険診療では金属に替わる材料としてセラミックとプラスチックを合わせた白い素材の「キャドカム冠（かん）」が条件付きで認められるなど、銀歯からの代替が進められています。また自費治療になりますが、近年のセラミック素材での治療はコンピューターで 3D スキャンを行い、

機械が削り出しするなど精度が驚くほど高く、見た目も天然歯と見分けられないほど優れています。

わが国の歯科治療はその耐久性や強度を備える「パラジウム」が標準ですが、戦時下を象徴した力強いライオン像が現在の気高い女神像に代わったように、将来の歯科治療はより天然歯に近く美しいものに代わっていくのかも知れません。

桐生が岡公園の「織姫平和像」



日露戦争記念彰忠碑「獅子奮迅の像」（当時の絵葉書）

【歯科口腔外科診療部長　今井　正之】